

第58期 報告書

2020年 1月 1日～
2020年12月31日

「世の中にない」「真に役立つ」
それが、私たちの研究開発の出発点です。

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

 興研株式会社

経営理念

1. 人を育てる
2. 技術を育てる
3. クリーン、ヘルス、セーフティの分野で新市場を育てる

事業領域



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第58期報告書をお届けするに当たり、ご挨拶申し上げます。



代表取締役副社長
堀口展也

代表取締役会長
酒井眞一郎
(登記名 眞一)

代表取締役社長
村川 勉

昨年(2020年)は当初の予想を裏切り、遂に新型コロナウイルス感染症の収束を見ることなく年を越えることとなりました。この感染症のために社会は否応なしに大きな変容を迫られることとなり、業種によっては理不尽と思われる不幸な状態を強いられています。

弊社は高性能の医療用マスクを供給できるメーカーとして1年を通して受注残に追われ、24時間製造を含め最大限の供給を行い現在に至るまでこの状態を続けています。

4月15日には社長が安倍首相(当時)とTV会議で増産の約束をし、群馬テクノヤードに設備投資を実行、9月には稼働を開始するという強行スケジュールもこなし、中井テクノヤード、SIAM KOKEN(タイ)と並んで3か所目の使い捨て式マスク「ハイラック」の製造拠点を持つこととなりました。現在時点で「ハイラック」の製造は月産200万枚に達しています。

こうした状況によって弊社は第58期の連結ベース売上で101億円となり、初めて100億円を突破することができました。

この間弊社におきまして、事業の性質上決して感染者を出してはいけないという覚悟の下、様々な対策をとりながら運営を進めました。社員全員の協力によって幸運にも1名の感染者もなく、展開できたことを有難く思っているところです。

その一方、医療用マスク以外の分野では大きな変容を

迫られています。オープンクリーンシステム「KOACH」は対面営業がほとんどできないという状況でネット営業に特化せざるを得ませんでしたが、顧客等の環境状況もあり、必ずしも成功という形にはなりませんでした。

また、内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍」等感染以外の医療用製品についてもクリニック様の外来患者の減少による経済的事情もあって販売の促進は感染症の収束以降に延ばさざるを得なくなっているのが現状です。

本年(2021年)にはワクチンの接種も始まり(特に医療機関勤務者はかなり早く)、それが弊社営業にどのような影響を及ぼしてくるか予想がつかない状況ですが、感染症が収束すればすれで販売促進のできる製品もありますので、状況に応じて業績の向上に最善を尽くしていく覚悟であります。

この様な中で第58期、弊社としては大きな利益を確保することができ、普通配当25円とは別に20円の特別配当を実施することとさせていただきます。

現在のような社会変動の激しい局面では何が起こるかを想定することが極めて難しいと言わざるを得ませんが、弊社は技術開発をベースとして社会貢献するという理念を貫くことで企業の発展に努めて参ります。

株主の皆様におかれましては、このような状況をご理解いただき、今後ともより一層のご支援ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

2021年3月

営業の概況

当連結会計年度(2020年1～12月)は、新型コロナウイルス感染症により経済活動が停滞し、景気は大幅に悪化しました。また当年度終盤は再び感染拡大が起こり、内外ともに社会経済活動が制限され、景気は不安と混乱の中、下振れして推移しました。

当社グループではこの環境の下、全社員に対し当社製感染対策用N95マスク「ハイラック350型」の常時着用を義務付けたほか、在宅勤務やテレビ会議の積極的活用を進め、社員全員の感染対策を徹底し、主要製品の安定供給に努めました。

「ハイラック350型」の緊急増産を継続するとともに、既存顧客への安定供給を確保しつつ、政府からの出荷要請への対応等、緊急度に応じた全国の医療機関への小口分納を拡大さ

せ、医療従事者を護るべく、全社一丸となった取り組みを行いました。

訪問営業の機会確保が難しい状況の中、オープンクリーンシステム「KOACH」と内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍ⅡG」は、代理店との協働営業を進め、「KOACH」は前年実績を若干下回りましたが、「鏡内侍ⅡG」は同実績を上回る成果を得ました。

これらの結果、当連結会計年度の実績は、売上高101億52百万円、営業利益11億33百万円、経常利益10億97百万円、親会社株主に帰属する当期純利益8億37百万円となり、売上高、利益ともに過去最高の業績を収めました。

セグメント別の業績は以下の通りです。

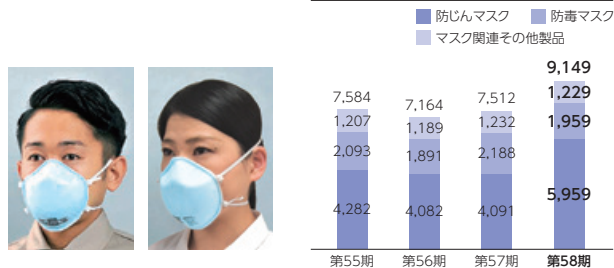
マスク関連事業

売上高 **91億 49百万円** (前連結会計年度比21.8%増)

感染対策用マスクの医療分野での需要の急増・高止まり及び政府・自治体等からの備蓄用としての注文に対し、国内外でのフル生産を継続するとともに、群馬テクノヤード内に製造設備を増設し、供給量の拡大に努めました。

一方、産業用については、上半期はマスク不足の懸念による仮需が生まれましたが、第3四半期以降はその反動で、前年同四半期比10%程度の減収となりました。

マスク関連事業売上高 (単位:百万円)



感染対策用N95マスク
「ハイラック350型」

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

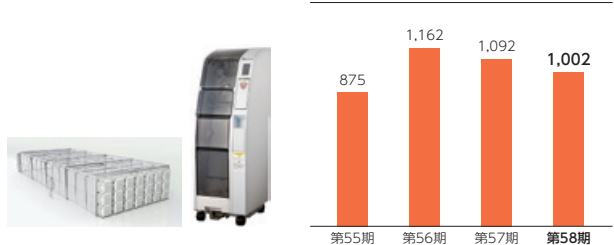
その他事業 (環境関連事業等を含む)

売上高 **10億 2百万円** (前連結会計年度比8.2%減)

「KOACH」については、対面営業の極端な減少から、販売台数は前年実績を下回りましたが、大型機種「フロアーコーチ」の納入が続いたことから、売上高は前年実績を若干下回る水準を維持することができました。

「鏡内侍ⅡG」につきましても、訪問営業の自粛や医療施設の経営悪化等により厳しい事業環境にありましたが、既存顧客の更新需要を受注に結びつけるなどし、売上を伸ばしました。

その他事業売上高
(環境関連事業等を含む) (単位:百万円)



「フロアーコーチ」

「鏡内侍ⅡG」

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

対処すべき課題

当社グループは、企業価値の更なる向上と持続的な発展・成長を実現するために、3つの経営理念「人を育てる」「技術を育てる」「クリーン、ヘルス、セーフティの分野で新市場を育てる」を基に、それぞれの継続的課題に取り組んでおります。

【人を育てる】

多様性を受容する当社独自の人事管理制度「興研トータル人事システムHOPES(ホープス)」に基づき、年齢、性別、勤続年数を問わず活躍の場を与え、常に意欲のある人材を適所に登用しております。また、専門知識・能力向上を図る独自の社内研修プログラムを確立し、職分に応じて計画的、効果的に能力開発を進めております。

【技術を育てる】

創業以来、守り続けてきた「他社に追随しない」「徹底的に研究する」という研究開発の理念を技術開発員一人ひとりに徹底・浸透させるため、技術専門能力を評価するマイスター制度や技術開発員と取締役全員が参加する月例研究発表会といった独自の仕組みを継続、運用しております。

【クリーン、ヘルス、セーフティの分野で新市場を育てる】 ＜クリーン＞

世界最上級の清浄空間を、周りを囲うことなく短時間かつ低消費電力で形成する革新的なクリーンシステム「KOACH」を先進的技術開発を支える必須デバイスとして広く普及させ技術・生産の飛躍的進化へ貢献して参ります。

＜ヘルス＞

使い捨て式マスク「ハイラック」シリーズの安定的かつ最大限に供給できる体制を敷き、広く全国の医療現場等へ普及拡大させ、安心の「ハイラック」ブランドの確立を目指します。

誰でも簡単に洗浄消毒でき、洗浄消毒スタッフの方々の負担やリスクを大幅に軽減し、検査作業等にゆとりを生み出す内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍ⅡG」の拡販、普及に努めます。

＜セーフティ＞

厚生労働省が推進する規制・管理強化に対し、安全性と使いやすさを追求した製品開発はもとより、産業を支える労働者を護るべく適時・的確な情報提供を行い、適正な呼吸用保護具の着用を推奨して参ります。

今後、需要拡大が見込まれる電動ファン付き呼吸用保護具「プレスリンク」シリーズや使い捨て式マスク「ハイラック」シリーズをはじめとした高機能・高付加価値製品の開発・普及を通じ、国内産業用マスクのトップメーカーとしての役割を果たして参ります。

当社グループは、昨年発生した新型コロナウイルス感染症の拡大によって顕在化した、以下のようなリスク及び課題に対し、優先的に取り組んで参る所存であります。

【マスクの生産・供給体制】

新型コロナウイルス感染症によって急拡大した感染対策用マスクの需要に対して更なる生産能力の向上と安定供給の維持に努めます。一方産業分野では、感染症拡大に伴い主要顧客である製造業において休業や稼働率低下が生じ、マスクの受注数が前年割れとなる傾向を示しました。

コロナ禍の収束は見通しが立たず、長期化も視野に入れる必要がある中、日々変化する状況に応じ生産から供給への一連の対応策を機動的かつ柔軟に実行して行くことが求められております。

タイの生産子会社においては昨年2月よりフル生産に入り、全量を日本に出荷する体制をとりましたが、タイ政府による輸出許可の停止や一部同国への供給が求められるなど、海外での生産・輸送におけるリスクが発生しました。

これに対し速やかに国内の群馬テクノヤード内に新たな生産設備を増設し、総生産量の拡大と安定供給体制の強化に取り組まれました。今後も様々な制限が発生する可能性がありますが、マスクメーカーとしての社会的使命に応えるべく最大限の供給責任を果たして参ります。

【営業活動】

スーパークリーンシステム「KOACH」、自動ブラッシング機能付き内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍ⅡG」の販売については、訪問・対面営業の制限が続き、新たな物件情報の取得が前年を下回る状況にあります。これに対し、Web会議等のシステムを活用した新しい営業活動を既に立ち上げて取り組んでいます。今後更に発展させ、リモートワークによる顧客、代理店への効果的な営業へと進化させて参ります。

【社員の感染対策】

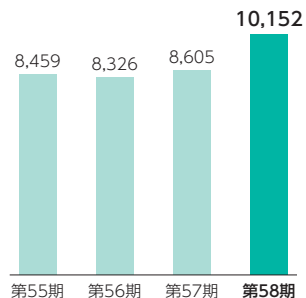
2009年の新型インフルエンザの国内流行以降、当社グループでは緊急増産の体制づくり、パンデミック時の行動要領を整備していたことで、短期間での増産体制を敷くことができました。また、全社員に対して当社製感染対策用N95マスク「ハイラック350型」の常時着用を義務付けたほか、在宅勤務、サテライト分散勤務やテレビ会議の積極的活用により、ピーク業績をも支えるオペレーション体制を構築し維持しています。

今後も徹底した社員の感染対策をとりながら、受注から生産、出荷に至る一連のオペレーション管理の強化、維持に努めて参ります。

財務ハイライト

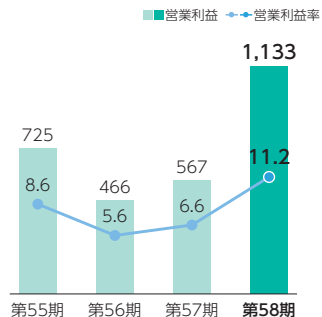
売上高

(単位:百万円)



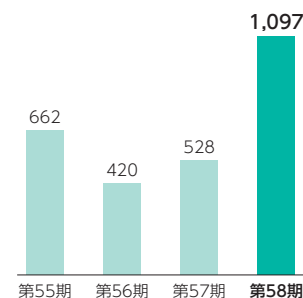
営業利益／営業利益率

(単位:百万円、%)



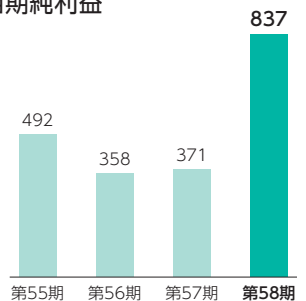
経常利益

(単位:百万円)



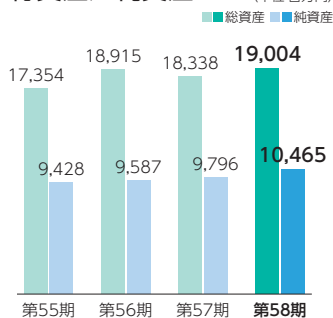
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



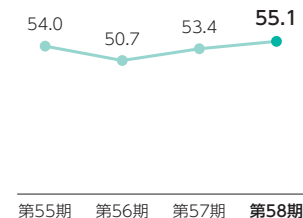
総資産／純資産

(単位:百万円)



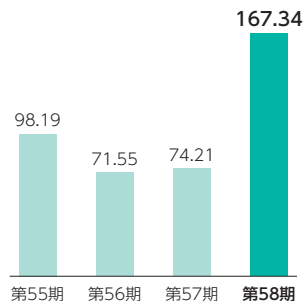
自己資本比率

(単位:%)



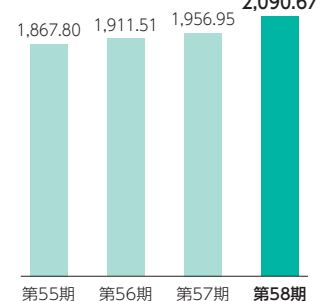
1株当たり当期純利益

(単位:円)



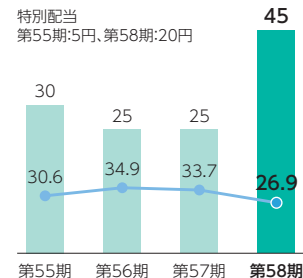
1株当たり純資産額

(単位:円)



1株当たり配当金／配当性向

(単位:円、%)



(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	第58期 2020年12月31日現在	第57期 2019年12月31日現在
【資産の部】		
流動資産	6,860	6,381
固定資産	12,143	11,956
① 資産合計	19,004	18,338
【負債の部】		
流動負債	4,325	4,520
固定負債	4,213	4,021
② 負債合計	8,538	8,542
【純資産の部】		
株主資本	10,474	9,762
資本金	674	674
資本剰余金	534	527
利益剰余金	9,418	8,707
自己株式	△152	△146
その他の包括利益累計額	△8	33
③ 純資産合計	10,465	9,796
負債・純資産合計	19,004	18,338

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	第58期 2020年 1月 1日から 2020年12月31日まで	第57期 2019年 1月 1日から 2019年12月31日まで
売上高	10,152	8,605
売上原価	5,261	4,562
売上総利益	4,890	4,043
販売費及び一般管理費	3,757	3,475
営業利益	1,133	567
営業外収益	43	54
営業外費用	78	94
経常利益	1,097	528
特別利益	0	—
特別損失	48	13
税金等調整前当期純利益	1,049	515
法人税、住民税及び事業税	302	184
法人税等調整額	△90	△39
親会社株主に帰属する当期純利益	837	371

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	第58期 2020年 1月 1日から 2020年12月31日まで	第57期 2019年 1月 1日から 2019年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,373	1,749
投資活動によるキャッシュ・フロー	△606	24
財務活動によるキャッシュ・フロー	△680	△1,464
現金及び現金同等物に係る換算差額	△14	1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	72	311
現金及び現金同等物の期首残高	1,492	1,180
現金及び現金同等物の期末残高	1,564	1,492

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

財政のポイント

- Point1 資産** 流動資産である仕掛品並びに原材料・貯蔵品及び有形固定資産の増加等により6億65百万円増となりました。
- Point2 負債** 長期借入金の増加等に対し、流動負債である1年内返済予定の長期借入金の減少等により3百万円減となりました。
- Point3 純資産** 利益剰余金の増加等により、6億69百万円増となりました。

新型コロナウイルス感染症への対応・取り組み

2020年1月後半から拡大した新型コロナウイルス感染症の世界的な流行によって対策用マスクの需要が一気に高まり、医療機関で使用されるN95マスクの不足が深刻化しました。そのような状況の中、当社グループは、日本の医療機関を護るため、以下の対応を行いました。

また、フィルタ・気流技術を活用した感染症対策製品を開発し、発売しました。

1. 緊急増産対応

- できるだけ多くの医療機関にいち早くかつ必要数量を供給するため、感染対策用N95マスク「ハイラック350型」の緊急増産体制の早期立ち上げ、受注、生産から出荷に至る一連のオペレーション管理を強化しながら、その維持に努めました。



医療現場で使用される感染対策用N95マスク「ハイラック350型」
マスク内側にあるFFリップが高いフィット性を実現

- 国内(中井テクノヤード)、海外(SIAM KOKEN LTD.: タイ王国チョンブリ県)の製造拠点2か所にて、増員によるフル生産を行い供給の増大を図りました。



中井テクノヤード

SIAM KOKEN LTD.

- 2009年の新型インフルエンザ(A/H1N1)の国内流行以降、当社グループでは、緊急増産の体制づくり、パンデミック時の行動要領等を整備してきたことにより、短期間での増産態勢に入ることを可能としました。
- 製品材料、部品は、ほぼ国産のため資材等の調達をコントロールし、原材料を要因とした製造への支障はありませんでした。

2. タイ政府による輸出許可停止措置の解除交渉

- 2月よりフル生産体制に入り、全量を日本へ出荷
- 2月13日、タイ政府によりマスクの輸出許可が全面停止
- 現地に情報収集、タイ政府との接触を重ね輸出許可取得に努めた結果、2月27日、輸出が許可され日本への出荷が再開
- 並行して現地生産のハイラック(N95)の同国への供給要請に対応

3. 生産設備の増設による供給量拡大

継続するN95マスクの不足、備蓄の推進及び政府からの増産要請に対応するため、国内の生産設備を増設し、供給量を拡大しました。

【増設の概要】

- 立地: 当社群馬テクノヤード内(群馬県みどり市)
- 生産品目: 使い捨て式防じんマスク「ハイラック」シリーズ
- 生産能力: 月産60万枚
(従来の月産総数140万枚を200万枚へ)



群馬テクノヤード(新生産設備)

4. 緊急性の高い機関への分割出荷

- フィット性の高さなど、その高機能、高性能が評価され、感染症指定医療機関の6割で採用されてきた「ハイラック350型」ですが、平時においては大量に使用されるものではありませんでした。
- 今回の新型コロナウイルス感染症の拡大により、増産をはるかに上回る受注がありました。販売店とともに緊急度に応じ全国各地の医療機関への小口分納を拡大させ、特に医療従事者を護るべく、全社一丸となった取り組みを行いました。
- その結果、1年間で全国の約2,000か所の医療施設(病院、保健所、感染症指定医療機関等)に「ハイラック350型」を供給することができました。

5. 医療従事者を護る機器の開発、発売

医療従事者は、対面診療時にどうしても患者と近い距離で接しなければならず、常に高い感染リスクにさらされています。コロナウイルス感染者には無症状な方も少なくないため、診療する全ての患者に対して感染リスクを想定した対応が必要です。

そうした感染リスクを最小化することを目指し、ウイルスサイズの粒子が99.999998%除去されたクリーンエアと、高度な整流技術によって作り出される究極の清浄空間により、医療従事者を保護することができるウイルス感染対策用フリーアクセススーパークリーンブース「Stand KOACH Mz」を開発し、発売いたしました。

【主な特長】

- ・独自のフィルタ技術
- ・高度な整流技術
- ・オープン構造
- ・同室内のスタッフの感染リスク低減
- ・どこでも、簡単に、すぐに使える
- ・静音設計
- ・熱や湿気がこもらない



6. 医工連携による医療用陰圧デバイス3種の開発、発売

新型コロナウイルスやインフルエンザの感染が疑われる患者や検体から発生するマイクロ飛沫の拡散を防止し、医療従事者及び患者の双方に安心で安全な環境提供に役立つ医療用の陰圧デバイス3種を東邦大学様と共同開発し、発売しました。

①検体採取用陰圧ブース「LAMIKOACH Np (Negative pressure)」

新型コロナウイルス・インフルエンザの同時流行に伴う検査数の急増に対応するため、安全かつ最小限の人数で効率的に検体採取が行える陰圧ブースです。

【主な特長】

- ・プッシュプル気流の応用でマイクロ飛沫を素早く除去
- ・ $0.15\mu\text{m}$ の微粒子を99.99999%捕集
- ・陰圧状態をランプで表示
- ・補助員なしでも素早く作業ができる



②気管挿管・抜管用陰圧フード「DANTECT for Ti (Tracheal intubation)」

③病原体検査用陰圧BOX「DANTECT for Pt (Pathogen testing)」

※製品②③の詳細はP.10巻末特集の「DANTECT」シリーズの開発をご覧ください。

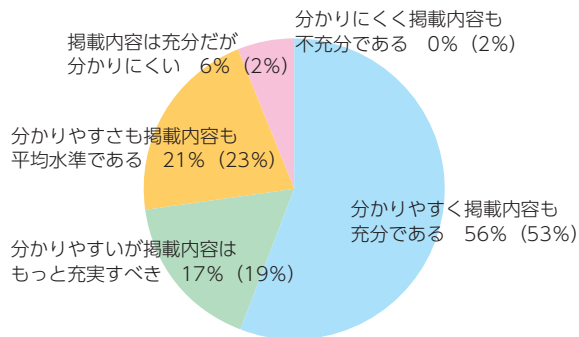
株主アンケート結果

前回「第57期報告書」にて実施した株主アンケートの集計結果をご報告させていただきます。当社では一つひとつのご意見を真摯に受け止め、IR活動の参考とさせていただきます。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

Q 事業報告書の掲載内容についてお聞かせください。

()内は前々回「第56期報告書」結果



Q 当社に対するご意見をお聞かせください。

社会に貢献できる企業の株主であることを誇りに思います。

コロナ騒動でお忙しいでしょうけれども、日本のために頑張ってください。

マスクの安定供給ができるようにお願いします。

「鏡内侍」商品、初めて知りました。このような商品を開発しているのは素晴らしいと思います。

など

会社概要

商 号 興研株式会社 (英文社名) KOKEN LTD.
 創 業 1943年(昭和18年) 5月10日
 設 立 1963年(昭和38年) 12月12日
 資 本 金 674,265,291円
 本 社 所 在 地 東京都千代田区四番町7番地
 従 業 員 数 連結320名(うち当社236名)
 上場証券取引所 東京証券取引所 JASDAQスタンダード
 事 業 内 容 防じんマスク、防毒マスクなどの労働安全衛生
 保護具及び環境関連機器・設備の製造、販売

株式の状況

発行可能株式総数 20,000,000株
 発行済株式の総数 5,104,003株
 株主数 3,533名
 大株主(上位5名)

株 主 名	所有株式数 (株)	持株比率 (%)
公益財団法人酒井CHS振興財団	600,000	11.88
酒 井 眞 一	591,000	11.70
酒 井 宏 之	559,400	11.07
株 式 会 社 リ ソ ナ 銀 行	244,300	4.84
酒 井 香 織	229,600	4.54

(注) 持株比率は、発行済株式の総数(5,104,003株)から自己株式数(51,908株)を控除した株式数(5,052,095株)を基準に算出し、小数点第3位以下を四捨五入して表示しております。

株主優待制度のご案内

当社グループでは、株主様の日頃からのご支援に対し、「株主優待制度」を導入しております。本制度は単なる物質的な株主還元だけではなく、株主様への安全、安心のご提供を目的としています。ぜひご利用ください。

▶ ご優待内容

当社製品の優先購入ができる『優先購入券(KOKEN 安全・安心チケット)』を保有株式数、保有年数に応じて贈呈。

▶ 対象となる株主様

毎年6月末日現在の株主名簿に記録されている1年以上かつ1,000株以上ご所有の株主様。

※『優先購入券(KOKEN 安全・安心チケット)1年間有効』には、100%割引と30%割引の2種類がありそれぞれ購入の上限数を設定しております。

株主優待に関するお問い合わせ先

TEL : 03-5276-1932 FAX : 03-5276-6530

当社広報・IR室までお問い合わせください。

役員 (2021年3月26日現在)

代表取締役会長 酒 井 眞 一 常勤監査役 秋 山 俊 雄
 代表取締役社長 村 川 勉 常勤監査役 伊 藤 善 博
 代表取締役副社長 堀 口 展 也 社外監査役 階 戸 照 雄
 専務取締役 村 松 光 二 社外監査役 白 日 光
 専務取締役 田 中 文 和
 常務取締役 井 端 秀 明 常務執行役員 齊 藤 雄 司
 取 締 役 長 坂 利 明 執 行 役 員 木 村 一 志
 取締役相談役 酒 井 宏 之
 社外取締役 櫻 井 し の ぶ

事業所・グループ会社

本社／東京
 先進技術センター／飯能
 テクノヤード／狭山、群馬、所沢、中井、嵐山
 配送センター／埼玉
 営業所／全国15か所
 環境テクニカルサイト／飯能(先進技術センター内)
 KOACHショールーム／名古屋、大阪、広島、九州
 連結子会社 SIAM KOKEN LTD.／タイ王国チョンブリ県

▶ ご優待品



感染対策用マスク
 「ハイラック」シリーズ

火災・特殊災害避難用マスク
 「ライフマスター」シリーズ



優先購入ができる製品類

「世の中にない」「真に役立つ」が、私たちの研究開発の出発点

「世の中にない」「真に役立つ」を研究開発の出発点とし、“大きい企業”ではなく、規模の拡大はゆっくりであっても、世界にない、当社にしかできない「オンリーワン」「ナンバーワン」の技術・製品を持つ“強い企業”＝「技術立社」になることが私たちの目標です。この特集では、興研の研究開発についてご紹介します。

第6回 新型コロナウイルス感染対策用陰圧デバイス「DANTECT」シリーズの開発

● 東邦大学様との共同開発(医工連携) ●

開発の経緯

コロナ禍で逼迫した状況にある医療現場へ、私たちが持つ技術で「世の中にない」「真に役立つ」感染対策デバイスを提供できないかという考えから「DANTECT」シリーズは誕生しました。

私たちは、医療従事者の感染リスクを最小限に抑えることで、医療崩壊を避けることができると考え、ウイルスを含んだマイクロ飛沫が発生しやすく、かつ対策が十分でなかった「全身麻酔時の気管挿管・抜管時」と「病原体検査キット使用時」のそれぞれに使用できる感染対策デバイスを東邦大学様と共同開発することとしました。

全身麻酔時の気管挿管・抜管は、マイクロ飛沫の発生リスクが高いことが知られており、医療現場ではアクリル製のボックスで患者の上半身を覆う等の感染対策がとられていました。一方で、2020年8月に米国FDAから「陰圧化されていない感染対策ボックスは患者並びに医療提供者のリスクを高める可能性がある」と発表され、陰圧型の感染対策デバイスが重要視されるようになりました。

そこで、東邦大学医学部微生物・感染症学講座、同麻酔科学講座及び東邦大学医療センター大森病院感染管理部、同先端健康解析センター様と共同で改良を重ね、これまで市場になかった高い安全性と作業性を両立した気管挿管・抜管用陰圧フード「DANTECT for Ti」を共同開発しました。

また、第2波発生時に政府は、この冬に來るべくインフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行(第3波)を見越して、検査体制の拡充を進めていました。その動向から今後は様々な医療機関でも病原体検査を実施することが推察されました。しかしながら、検体を扱う際に使用する安全キャビネット等の感染対策デバイスを有していない施設が多く、設置スペースがないといった課題もありました。

この課題を解決すべく、当社がマスクメーカーとして培ってきたフィルタ及び環境改善機器の技術をベースに、東邦大学医学部微生物・感染症学講座様と共同で改良を重ね、これまで市場になかった非常に小型でリーズナブルな病原体検査用陰圧BOX「DANTECT for Pt」を共同開発しました。

主な特長

共通項目

(1) 超高性能フィルタ搭載

防じんマスクでトップシェアを誇る当社の技術で生み出した超高性能フィルタが搭載されています。このフィルタは、日本の国家検定規格「電動ファン付呼吸用保護具」[PL3]と同等で、0.15 μm ~0.25 μm を99.97%以上という高い捕集性能を有しています。

(2) プロアで陰圧化し、マイクロ飛沫を漏らさないプロアを搭載し、内部が陰圧される(気流が内側に向かって流れる)ことで、検体から発生するマイクロ飛沫を外部に漏らさず、安全に作業できます。

1. 気管挿管・抜管用陰圧フード

「DANTECT for Ti(Tracheal intubation)」

- ・挿管用器具等の使用を楽に行えるBOXサイズ
- ・誰でも簡単に組立てられるシンプル構造
- ・大きく透明で内部構造が見やすいフィルム窓
- ・無駄な隙間を極力排した封じ込め効果の高い本体

2. 病原体検査用陰圧BOX

「DANTECT for Pt(Pathogen testing)」

- ・横幅400~500mm、奥行300~400mmと一般的な机の上に設置可能

※「DANTECT(ダンテクト)」という名称は、「ダンボール」で医療従事者を「プロテクト」という製品コンセプトに由来しています。



気管挿管・抜管用陰圧フード
「DANTECT for Ti」



病原体検査用陰圧BOX
「DANTECT for Pt」

VOICE

開発に携わって

当ディビジョンは、装着者の頭部だけを陰圧にできる安価かつ高性能な感染対策デバイスが世の中にないことに着目していました。

それを具現化するために、私たちは当社で有する防じんマスク用高性能フィルタとプロユニットを利用し、それらをダンボールに取付けたモックアップを過去に試作していました。

しかし、私たちだけではこの試作品の活躍の場を見出すことはできず、アイデアをディビジョン内で共有している状況でした。

そんな中、新型コロナウイルスが猛威を振るい、あっという間に全世界に拡散していきました。このコロナ禍においてこの試作品が医療従事者の役に立てないかと考え、KOACHのユーザーでもある東邦大学石井教授を通じ、同大学大森病院感染管理部様へ試作品を紹介する機会をいただきました。

この打合せの際に、全身麻酔時の気管挿管及び抜管時に大きな感染リスクが潜んでいることを教えていただきました。この時、この試作品を「気管挿管・抜管用の有効な感染対策デバイス」に変えられると直感し、その日のうちに試作品を改良することに尽力しました。姿を変えた試作品は東邦大学麻酔科学講座様から、「こんな感染対策デバイスが欲しかった」とコメントをいただきました。この日を起点に製品化へのスケジュールが加速しました。この時、私たち開発陣の心の中にあったのは「1日でも早く「真に役立つ」製品を上市しなければならない。このタイミングを逃したら医療従事者を助けることはできない」という気持ちでした。

その後、試行錯誤を重ね、多くの麻酔科の先生方に「問題なく気管挿管・抜管ができる」と合格点をいただき、DANTECTシリーズの第1号「DANTECT for Ti」が誕生しました。

次にこの第1号をベースに、病原体検査時の安全を確保するための感染対策デバイスであるDANTECT第2号「DANTECT for Pt」を開発しました。DANTECTであれば安価・省スペースで検査環境を整えることができ、検査体制の拡充のお役に立つことができます。

現在、DANTECTシリーズは数百を超える様々な医療施設でご採用いただいています。DANTECTは本当に医療従事者に必要とされている製品だと実感しました。

これからもDANTECTシリーズのような「世の中にない」「真に役立つ」製品開発を続けて参ります。

・マーケティング本部
環境エンジニアリングディビジョン

株主メモ

事業年度 1月1日～12月31日
定時株主総会 3月
基準日 12月31日
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の
口座管理機関 同上
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所 東京証券取引所 (JASDAQ)
公告の方法 当社ホームページに掲載
<https://www.koken-ltd.co.jp/>
ただし、やむを得ない事由にて電子公告が行えない場合は、日本経済新聞に公告いたします。

各種お手続きについて

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、口座管理機関の三菱UFJ信託銀行までお問い合わせください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。（お問い合わせ先）
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
・連絡先 0120-232-711（フリーダイヤル）
・ホームページ <https://www.tr.mufig.jp/daikou/>
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でのお支払いいたします。

ホームページのご案内

当社のホームページから最新の会社情報や決算短信など詳細なIR情報がご覧いただけます。ぜひご活用ください。

<https://www.koken-ltd.co.jp/>



トップページ



IR 情報サイト

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <https://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 7963

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。（タイトル、本文は無記入）
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝（図書カード500円）
を呈呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media（イー・ツー・メディア）の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
（株式会社 a2media についての詳細 <https://www.a2media.co.jp>）
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。（1809）

- アンケートのお問い合わせ
「e-株主リサーチ事務局」

MAIL: info@e-kabunushi.com

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

 **興研株式会社**

〒102-8459 東京都千代田区四番町7番地



**UD
FONT**

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。